

# 党大会後の中国をどう見るべきか

2022/10/28 宮本雄二

## 1. 新たなフェイズ（局面）に入った中国政治

### (1) 「新習近平時代」の到来

- ◎ 「反腐敗・反規律」を使って「力」をつけ、党官僚・経済界・知的エリートの「鉄の三角形」の崩し、「長老」を無力化。
- ◎ 胡錦濤時代の**開明派政策**が失敗。選択肢は**保守派（国粹的）政策**路線のみ（「習近平思想」に党内の反対はほぼなし）。
- ◎ 「百年未だかつてなかった大変化」という時代認識。米中対立の激化と長期化に対する共産党指導部内での危機感の増大（「和平演変」）。共産党統治という“コップ”の中の争い（党の分裂は避けるべしという党内世論）。
- ◎ トップの意向の通る体制の実現（鄧：自分と異なる系列も多く登用、習：自派のみを登用、能力よりも忠誠）。

### (2) 「新習近平時代」の基本的方向

- ◎ これまでのものの考え方を整理（「習近平思想 ver.2」）。基本路線は変わらず。
- ◎ 経済よりも政治を重視

- ◎ 「改革開放」政策)の中身の変化(経済中心の「改革開放」→「改革」と「開放」に分け、多分野の「改革」を追求。それに見合った「開放」)
- ◎ 「国家安全」と「人民」の重視
- ◎ 軍拡路線は不変

## 2. 習近平の「新時代」の見通し

### (1) 毛沢東時代、鄧小平時代と比べた習近平新時代の特徴

- ◎ 毛沢東時代：理論は確立。人事は掌握。実践と後継者養成で失敗。政≫経。
- ◎ 鄧小平時代：理論は実践の中で確立(～92)。人事は掌握するもバランスと能力重視。後継者養成に成功。政<<経。
- ◎ 習近平新時代：理論は発展途中。人事は掌握。実践と後継者養成は今後の課題。政>経。

### (2) 経済運営が最大の課題

- ◎ 厳しい経済情勢の下、経済チーム(李強+何立峰)は市場と対話し、市場の要求を習近平を説得して敏速に対応可能か？
- ◎ 官僚機構の政治化、劣化？
- ◎ 管理強化とイノベーションの相克

### 3. 「新習近平時代」の対外関係

- (1) 「東昇西降」の時代認識
- (2) 米国との戦略的対峙の長期化を想定。当面は米国との緊張緩和、対立回避を模索。しかし誇りある大国外交姿勢は堅持。
- (3) 台湾情勢は緊張。だがここ数年の基本路線を継続。新体制となり習近平の個人的要素がより大きな影響を及ぼす点、要注意。
- (4) 中国にとり日欧、特に欧州が米国と一定の距離を置くことが長期的な対米抗争のために重要。ロシアのウクライナ侵攻は害多くして益少なし。
- (5) 日本との関係も重要。習近平は一貫して日本との関係を重要視。

### 4. 新時代の習近平政権とどう付き合うか

- (1) 当分は模様眺めが適当。実際の打ち出す措置、当事者の能力、党内、国内の反応等、要観察。
- (2) 台湾政策法もトゲを抜かれつつある(ビジネス界の逆襲?)。米国の出方も要観察。11月のG20の場での米中首脳会談は特に重要。
- (3) 台湾をめぐる米中の衝突は日本、世界にとっての最悪のシナリオ。日本外交は、緊張を緩和し、事態の安定化のために知恵を出し、汗をかくべし。